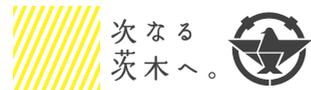




イバラキ クラウド

ibaraki cloud
2023

次なる茨木グランドデザイン



茨木市 都市整備部 都市政策課
〒567-8505 茨木市駅前三丁目8-13
電話:072(620)1660
メール:toshi@city.ibaraki.lg.jp

2023年11月26日 日曜日

おにクル開館と いくつかの社会実験

新たな茨木市のシンボルとして、ホール、図書館、市民活動センター、こども支援センター、プラネタリウムなどが一体となった施設「おにクル」が2023年11月26日に開館しました。おにクル館内や芝生広場でにぎやかにオープニングプログラムが行われたのと同じ頃、茨木のまちなかではいくつかの社会実験やイベントが同時に行われていました。

本冊子では、より多くの人が茨木のまちなかエリアを訪れ、変化を実感したこの11月の社会実験と、1月に行われた社会実験の様子をお伝えします。



おにクル

茨木市の新たなランドマーク!
「育てる広場」がコンセプトの
文化・子育て複合施設です。

1

道が変わればまちも変わる。 DIYも活用した2日間の試み。

茨木の中央通りと東西通りを、より魅力的な通りにするための取り組み「茨木みちクルプロジェクト」が2020年から始まっています。これまでミーティングやワークショップを重ね、2022年度は1か月間の社会実験を実施。そして、2023年度は「みちから、まちをリノベーションして変えていこう!」＝「みちリノ」というタイトルのもと、JR駅前商店街の側道を車両通行止めにして、昼は子どもが楽しめる遊び場、夜はナイトバルを展開しました。普段は車と自転車が通行するだけの道路空間が、この2日間ばかりはふらっと立ち寄りことのできる賑わいの場に。沿道の商店街のみなさんにとっても、DIY企画や2日間の社会実験の開催を通してつながりの深まる結果となりました。



NIGHT



商店街のアーケードのボールは、事前にDIY企画として色塗りを実施。社会実験当日には、沿道の花屋さんの草花もたくさん飾られた。



DAY



茨木市みちクルプロジェクト「みちリノ」

- 📍 中央通り JR茨木駅前商店街前の側道
- 📅 2023.11.25 - 26 実施

駅前に広場空間を設置する社会実験「いばント」

2

車中心の駅前に 芝生のある広場空間が出現。

今後の再整備事業が予定されているJR茨木駅西口駅前。ここで、全6回のまちづくりワークショップを経て生まれたアイデアをもとに、ゆったりとくつろげる芝生スペースのある広場空間を設けました。芝生にはパラソル付きのテーブルやベンチ、絵本や雑誌を備えた本棚なども。飲食ブースの出店もあって、これを偶然見かけた親子連れらが次々と訪れるなど、居心地のいい空間となりました。また、まちなか見学ツアーと座談会もあわせて開催。こうした取り組みに対する声を集めて、再整備に向けたさらなる検討を進めます。



立命館大学の学生のみなさんの協力のもと、「楽器を演奏してみる」「大縄で体を動かす」といったアイデアを実施する試みも。



えきまえマルシェ



駅のホームや西口にある歩道橋からも、マルシェの賑わいを目にする事ができた。

駅に直結したオープンスペースを より一層活用していくために。

2023年5月からスタートしたいばらきスカイパレットでの「えきまえマルシェ」が、おにクルオープン日にあわせて5回目の開催となりました。焼き菓子や焼き芋といったフードに加えて、前回から始めたアルコールの販売や、ハンドメイド作家による初出店も。ステージでは途切れることなく、ジャズやダンスのパフォーマンスが繰り広げられ、駅前空間を賑やかに盛り上げました。駅からつながるオープンスペースとして、これからもさまざまな利活用を進めていきます。

3



4

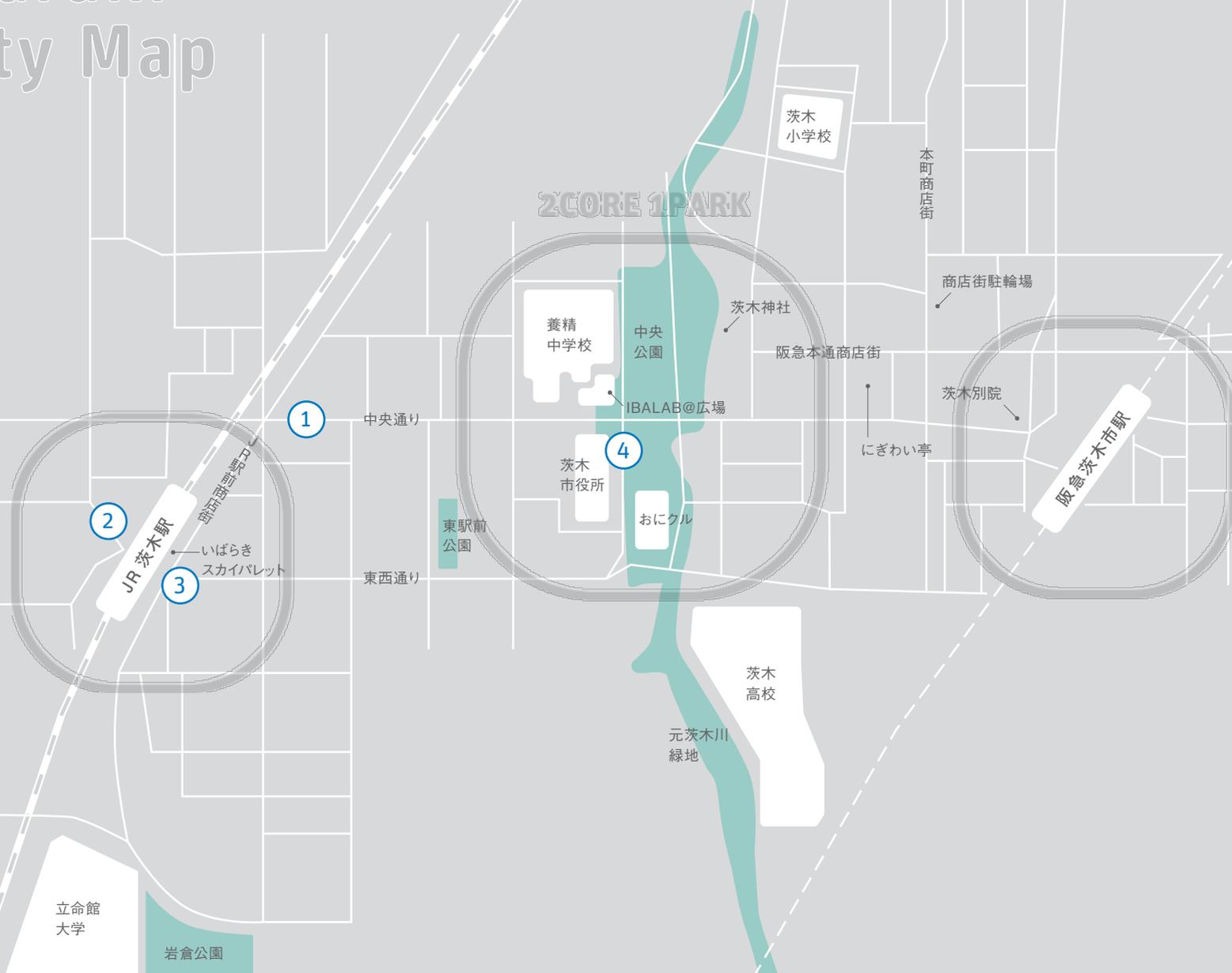
まちの中心部で新たな景観、 新しい空間の使いかたを。

おにクルと市役所間の道路(市役所前線)を通行止めにしての社会実験です。2023年3月に続いて2回目の開催となりました。普段は道路や駐車場として利用される公共空間に青空こたつ、キッチンカーによる出店、もちつき大会などもあり、たくさんの方が集いました。もともと、この社会実験は道路を人中心の空間にしたときの人の流れや行動の変化を調査する目的があります。どのような条件、空間の活用によって市役所前線の様子が変わるのか。この2日間で集められたデータは、今後の空間整備に活用します。



シンプルな木材の組み合わせで屋台、ベンチ、車止め、駐輪機…と様々な機能を変化させる木製ブース。日本建築協会のU-35委員会による設計。

Ibaraki City Map



わたしのレポート

おにクル開館から数々の社会実験やイベントが開催された日、市民のみなさんはまちなかでどう過ごしたのか。あるがままの日記を書いていただきました。

11/26 SUN

name. 竹内 恒(会社員)
address. 茨木市大住町 在住

今週末は、子ども3人とお留守番。昨日は買い物に行ったから、今日はおにクルを見に行くことにする。茨木駅でお昼を食べてから、出発。スカイバレットでの音楽を聴きながら、下に行く。もう少しゆっくり見たかったな。駅前商店街で子どもの遊び場ができていた。上の子2人が走って遊具に行く。下の子も遊ぶとベビーカーから訴えるので、一緒に降りて遊ぶ。高さのある遊具でも怖さ知らずでどんどん進む。上の子たちは、遊具を動かしたかったみたいだが、手が足りず、手伝えず。ごめん。その後おにクルまで歩く。おにクルはたくさんの人。1階を通り抜けるだけ。また空いてから行こう。桜通りに抜けて、いばらりに参加する。モルックしたり、くろみボタン作ったり、色んなイベントがより集まった感じで子どもたちも楽しめたかな? たくさん歩いて帰り道は少しグダグダ。疲れたかな? 帰って晩ご飯を作ろう。

11/26 SUN

name. サキ(会社員)
address. 茨木市奈良町 在住

快晴。空気はきりっと冷たく、すっきり澄んでいる。昨日まで旅行に行っていた間に、茨木にも冬が来たようだ。寒いね〜と夫と言いながら、今日開館のおにクルへ出掛ける。通りかかる度に工事が進んでいくのを見て、完成を楽しみにしていたのだ。散歩がてら向かうと、おにクルと書かれた風船を持った人々と次々にすれ違う。やっぱりみんな行くよね、と思いつつ、いざ着くと想像以上にぎわいで、施設の充実度よりもその様子に驚いた。茨木にこんなにも人がいたとは。広場では出店もあり、ご飯を食べたり駆けまわったり、大人も子どもも思い思いに過ごしている。いい広場だなあ、と思った。休日はここでピクニックするのもいいな。人の流れにつられて、茨木駅の方へも足を延ばす。駅前商店街のみちりノで好きなパン屋さんが出店していたので、明日のパンを買った。旅行という非日常から日常への緩衝に、ちょっとした非日常を味わえた。明日からも頑張れそうだ。

11/26 SUN

name. 栗本麻鈴(大学生)
address. 茨木市天王 在住

普段はタクシーが停まってる場所に芝生が設置された「いばら」で、友人と話したりご飯を食べたりとゆっくり過ごした1日。いつもとは違う景色にたくさんの方が訪れ賑わっていた。タクシー広場という普段過ごせない場所で過ごした時間は新鮮で楽しかった。今後、茨木駅周辺がみんなが楽しく過ごせる居場所になってほしいと思う。

1/20 SAT

name. miromiro(会社員)
address. 茨木市 在住

雨があがったので、愛犬と近所をお散歩に。最近はおにクルまで行って芝生を駆けまわるのがお気に入りのコース。以前より人通りは増えたが、整備されて広くきれいになった歩道は犬連れでも歩きやすい。おにクルが近づくと、愛犬が毎度駆け足になるので一緒に走っている。犬にとってもお気に入りの場所のようだ。最近では、小学生の息子も放課後、お友達と遊びに行っていて楽しんでいるらしい。大人も子供も犬もワクワクできる場所が、子供の時から住んでいる茨木に増えたのは本当にうれしい。市役所前の道に車が通らなくなればより安心してのびのびと遊べる場所になるだろう。ちょうど開催されていたイベントで、大きなシャボン玉を夢中で追いかける小さな子供を眺めながら思った。今週末も少し早起きしておにクルを散歩しよう!

2023

11/26 SUN

name. いのうえ3兄弟(社会人11年目)
address. 茨木市東中条町 在住

保育園ない休日に子ども3人と。普段は駅前までの道路で、抜け道に使うには申し訳なさのある細街路ですが、そこを訪れると、うちの子が「お祭りや!」と喜ぶ姿が見れました。小さなスペースではあるが、凸凹の遊具に、珈琲屋さんやご飯屋さんの出店があった。おにクルや中央公園ではウィンタージーカーのイベントもあり、温かいコーヒーを飲みながら腰を下ろして、子どもと遊んで過ごすことができました。茨木の活性化のため色々な方の働きかけのもと実現したイベントかと思います。

1/20 SAT

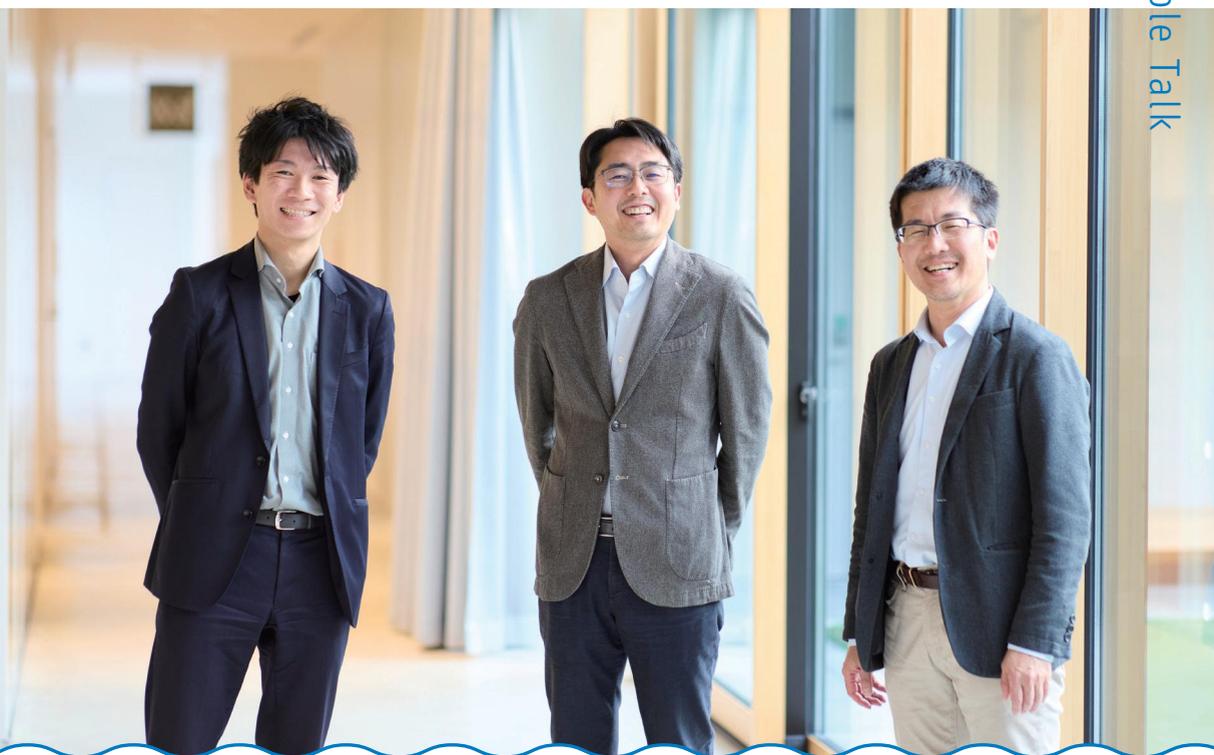
name. 林 遼佑(小学5年生)
address. 摂津市 在住

1月20日、ぼくは家族でおにクルのイベントに行きました。イベントが始まるまでの間、おにクルの館内でドラえもん映画の本を読んで待ちました。イベントでは、ぶよぶよボールすくいスタンプラリーを楽しみました。父がプラネタリウムの予約を取ってくれたので、見に行きました。星がとてきれいで、冬の星や太陽系の惑星について知ることができ、クイズも楽しかったです。お昼ごはんは、キッチンカーのホットドックとからあげとポテトを食べ、その後、外にあるこたつで、たこ焼きとみかんを食べました。こたつが外にあるのが面白かったので、楽しく食べることができました。帰る前にプリンも食べました。おいしかったです。おにクルでは、色々なことができ、どの食べ物もおいしかったです。

2024

今年度の社会実験を振り返って

茨木のまちなかで行われた社会実験に関わった3人の専門家。
公開の場で率直に意見を交換しました。



竹中工務店 設計部
日本建築協会U35委員会

市川雅也

おにクルの設計に関わる。昨年度より市役所前線の社会実験「IBARAKI STREET ACTION」を運営。

立命館大学 建築都市デザイン学科
准教授

阿部俊彦

JR茨木駅西口周辺まちづくりワークショップに関わる。今年度の社会実験では、研究室の学生とともに「いばソト」の運営にも参加。

地域計画建築研究所 アルバック

絹原一寛

昨年度から「みちクル」プロジェクトを運営。

阿部 今年度、いくつかの社会実験が行われましたが、中心市街地のウォークアブル化を進めるうえで、この社会実験が未来にどうつながっていくのか。絹原さんは大阪の御堂筋をはじめとして、各地のウォークアブルなまちづくりの現場にも関わられています。まずは今回の社会実験についてのご意見を聞かせてください。

絹原 私が関わった昨年度の「みちクル」では、道に滞在空間をつくろうということでやってみたんなんですけど、それほど広くない道路空間にそもそも滞在したいのだろうかという反省も生まれました。そこで今年度の目標としては、関わる事業者さんに振り向いてもらえることを第一に考えました。役所の担当の方もすごくがんばって、日々、お店に顔を出すようなことをして、これって愚直なようなんですけど、僕はすごく大事なことだったと思っています。道路が主題の社会実験のように受け取られやすいですが、むしろ、沿道にある店や町並みをどうしていくのかという話なんです。そこを考えるきっかけづくりはできたのかなと感じています。

阿部 大阪の御堂筋や姫路の大手通のように、まちの中心軸としての道があり、そこをウォークアブル化してまちづくりを進めていく。これだとわかりやすいのですが、茨木市の場合、中央通りと東西通りの2軸を定めながら、とってここだけに商店が集中しているわけでもない、この2軸にどれだけ力を注ぐべきなのか、市民の中でも意見が分かれるところかなと思います。

絹原 そうですね。この2軸にどれだけ市民の方が思い入れがあるかといえば、そこまでではないかもしれない。単に通るための道路としか認知してない人も多いでしょう。そのうえで、「2コア1パーク」と表現しているところのパーク＝公園や公共施設というのは、市役所がその気になって事業を進めれば実際に変えていきやすい場所であり、コア＝駅前というものもある程度の事業者の顔は見えています。それに対して、その間をつなぐ



Abe Toshiko

モール＝道というのは、そもそも関わる方があまりに多くて、ひとまとまりでは語れない大変さもあるんです。「みちクル」プロジェクトは、「道からまちを変えよう」と宣言するなど、とてもチャレンジな試みなのですが、本当に道からまちをどれだけ変えることができるのか、すごく悩みどころでもありますね。

阿部 確かにそうですね。今年度の社会実験について市川さんからもご意見をいただけますか。

市川 僕は最近、社会実験とイベントがごっちゃになったものが増えていることが気になっていて、たとえば、盛り上がっている記録写真がSNSなどで発信されているのをよく見かけますが、じゃあ次の日にその場所に行くとなんか何があるんだろうって。当たり前なことなんですけど、盛り上がりとは無縁の日常風景なんです。やっぱり「社会実験」と言うわけですから、実験としての仮説と分析が必要だろうというのが、僕らが市役所前線の社会実験の準備段階から話し合ってきたことでした。絹原さんにご指摘されるように、みちクルの現場になっている道路に比べると市役所前線に関わる事業者は少なく、加えて僕らが大事だと思ったのは、市役所前線では将来の計画がすでに見えている場所なんです。この好条件を活かして、実際の設計に結びつくような実験になればと考えて挑みました。

阿部 社会実験とイベントの違いということであれば、失敗し

ない、できない社会実験が多いという気もします。当然、発注側としては失敗されたら困るという事情もあるでしょうけど、たとえば私が見ていた駅前広場の「いばソト」にしても、もう少しアクシデントがあってもよかったなとも思っています。もちろん、事故が起きてしまっただけの後の継続ができないのが問題ですが、想定外にうまくいかなかったことが起きて、そこに専門家が目を向けて、それをどうしていくのかを考えるのが社会実験の意義かなと思います。市役所前線の社会実験ではアクティビティの分析や仮設的なストリートファニチャーといった、社会実験のイノベーションといえるような試みもなされていました。よくあるお決まりの社会実験ではなかったと感じましたが、その分、それが何だったのか、市民にはわかりづらい面もあったかもしれない。そのあたりはどうでしょう。

市川 イノベーション的なものだったかは自分たちではわかりませんが、そう見えてしまうのは、道路で車の通行を止めた後の計画論というのが、日本でまだ定まってないからという理由もありそうです。これまで、車社会に適応させるために道路整備を行ってきた日本において、その道路としての機能を止めて広場化していくとなったときに、その確かな手法がまだありません。だからこそ、こうした社会実験を通して模索しているという現状です。

絹原 社会実験とイベントが混同されているというお話、よくわかります。私は経験上、社会実験というのは10年くらいは続けてやらなければダメだと思っています。こう言うと役所の担当の方は引いてしまうかもなんですけど、やり方をいろいろ変えながら10年続けられる仕組みを考えていけたらいいだろう。今回の社会実験はまずはそのスタートなんだと捉えています。

市川 そうですね。継続性がすごく重要だと思います。今回の市役所前線の社会実験も、いろんな協議の結果、23年の3月に実施したときは1日だけしか通行止めにならなかった。それが24年1月には2日間実施できました。じゃあその次は1週間

なのか、毎週末なのか、とにかく、そうやって継続して重ねていくことが必要だと思います。ただ、継続していくためにも、社会実験に予算をつけ続けていくような仕組みが必要で、関わる専門家や市民にボランティア的に負担を押し付ける形になるとしたらそれは違うだろうと思います。

阿部 継続性と予算のこと、大事なお話ですね。これからの時代、ゼロイチの計画論というのは難しく、時間とともに変化することも想定しながら、さまざまなアクティビティに対応できる空間をデザインすることが求められている時代です。デザインの答えはひとつじゃないし、複数の案を考えないといけないですね。建築の設計者も、建物だけでなく周辺環境や公開空地のこともあわせて検討するし、ランドスケープデザイナーも建物内のことも見ておかないといけない。絹原さんのようなプランナーであれば、その両方を調整する役割があるのかなとも思いますけど、そのあたりの専門家の境目というものがなくなってきている。という中で、今回の社会実験において、それぞれのご専門の立場からどんなコラボレーションがもっとあるといいのか、そのあたりのこともお話しください。

絹原 プランナーとしての姿勢はそれぞれなので、あくまでも私の考えですけども…空間を設計する立場からの社会実験って



Ichikawa Masaya

Kinuhara Kazuhiro



Roundtable Talk

結構ありますけど、どちらかといえば仕掛けのデザインをやる人が本当に足りなくて、今の茨木にもそちら側の人が必要じゃないかと思っています。たとえば、私が関わっている大阪の御堂筋の例でも歩道を広げてウォークアブルにやっていますが、実現した後の空間をどう活用するのがとても難しく、結局はタバコのポイ捨てや放置自転車が集まったり、フードトラックがやって来て勝手に路上販売を始めたり。そういう状況に対してどうマネジメントをしていくのかといえば、空間デザインだけではどうしようもなくて、警察や道路管理者も含めた連絡会議をつくって、こまめに問題を共有するだとか、そういう仕組みのデザインがやっぱり必要なんです。そういったことも見通しながら、社会実験を考えていく必要があるのかなと思います。

市川 絹原さんのおっしゃるとおりですね。僕は設計者なので、その立場からいえば、設計者が空間を完全に決めきってしまうのは間違っていて、空間の余白というのは必要だと思います。ただ、それをマネジメントする組織がなければ、たとえば、オープンしてまずは大成功に見えるおにクルだって、いつかは禁止事項が増えて自由に使いづらいという建物になるかもしれない。そのあたり建築でも道路のようなオープンスペースでも同

じことだとあらためて感じています。

阿部 余白の空間をつくることは必要だけど、マネジメントや仕掛けのデザインがないままだと無法地帯になってしまう。そこをセットでやっていくためにも、社会実験というのは両者が一緒に考えるための場にしなければいけないと思いますね。

絹原 最近の相談の大半は、地域の人たちとどう協働してまちを変えていったらいいのかという点に尽きるんです。つまり、まちの人たちが主役になって、どこまで本気になれるのかが問われていて、ただ、そのために何をすればいいのかがわからない



座談会を聞いた人たちの感想

企業や行政が行うまちづくりはあくまで初めの一步であり、そこから先は市民が行っていくべきだと感じました。市民主体でまちをつくることで課題とつながる継続性につながると思います。

社会実験のひとつに参画していたが、他のエリアでの社会実験の概要を知らなかったこともあり、3つの社会実験の意義や失敗談も含めて共有できたことは、次の計画にとっていい機会であったと思う。

こうした社会実験に市民の一人ひとりがどれだけ関わってこれたのか、わからないところがあると感じました。この先、社会実験を行うときには市民のために関わりしろみたいなのをもう少しつくってもらえたら、いろいろなご意見もありました。茨木市はまちづくりが活発で私はいい街と思います。議論のなかで、住みよい街でこれ以上変える必要があるのかといった声も紹介されましたが、私は変わらない価値と変わっていく価値と両面があると思います。

んだと。そういった状況から導いていくのが私たちの仕事だとすれば、今回のみちクルが完全にうまくいったかといえば反省点もあります。ただ、今まで見えていなかった沿道の人たちの顔が見えてきた、その素地くらいはあるのかなど。そんな簡単にはいかないですよ。

市川 僕が設計者の立場で社会実験をやる意義としてもうひとついえば、まっさきに自分が汗をかいて社会実験を仕掛けるという役割かなと思います。市役所前線の社会実験のように、道路を通行止めにするということは一市民のできることじゃないですから。そういう最初の一步を僕らが担うこと、それもひとつの意義だと思います。

阿部 市川さんもお指摘されたように、継続するためには予算も必要ですが、結局、その予算の源は税金です。市民のみさんが税金を投じてもいいと判断できるよう、社会実験で得たことをフィードバックしていく仕組みも必要でしょうし、こうして説明する機会も大事だと思います。必ずしも社会実験という形でなくてもいいと思いますが、まちづくりにおいて試行をくりかえすというのはとても重要なのに、なかなか国の姿勢としてもそうはなっていない。小さな実験を繰り返すことができるようなメソッドを茨木市から作って広めていけば、この社会にとっても大きなことだと思いますね。

※2024年3月1日におにクル7階で行われた公開座談会で話し合われたことをもとに再編集しています。

茨木市では、まちなかを「2コア1パーク」の都市構造で捉え、まちづくりを推進しています。

まちなかのもつポテンシャルを活かす

茨木市のまちなか(中心市街地)は、人々が集まり、広域の交通アクセスを担うJR茨木駅と阪急茨木駅(2コア)が東西に位置し、駅間は約1.3kmとやや距離があるのですが、大きな道路による分断がなく、複数の商店街や中央通り・東西通りの東西軸(モール)があり、その中間地点には、緑豊かなおにクル・中央公園・元茨木川緑地(1パーク)があるといった、歩きやすく魅力的なエリアになるポテンシャルがあります。

2コア

JR茨木駅、阪急茨木駅の両駅周辺エリア

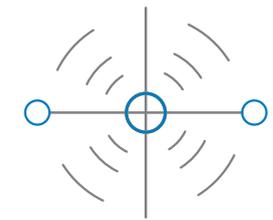
ふたつの駅周辺エリアでは、市民のニーズや生活利便に応える多様な施設機能を組み込むことで、市民の定期的な来訪の増加を図るとともに、交通や商業などの機能性だけでなく、安全で居心地のよい空間づくりを行っていくことで、周辺エリアの魅力と回遊性を高めています。

モール(東西軸)

2つのコアを結ぶメインストリート、中央通りと東西通り

中心市街地の東西軸となる2つの通りは、歩道が狭く、自動車中心の道路となっているのが現状です。この通りを歩きたくなる空間デザインのストリートとしていくことで、商店街をはじめとする商業空間や公共施設との連続性を形成していきます。

茨木市は、みなさんの共感のもと、「ひと中心」のまちなかへと歩みを進めていきます。



2 CORE 1 PARK

ひと中心のまちなかへ

ポテンシャルのある都市構造を「2コア1パーク」と捉え、それぞれの場で起きる変化や更新されることを、「点」で終わらせることなく、「線」でつなぎ、まちなか全体に「面」へと波及させることで、相乗効果のあるまちづくりを進めています。社会実験やワークショップなどのまちづくりのプロセスを積み重ねるなかで、まちなかでは、多様な「人々」が大小さまざまな「場」で、くつろいだり、楽しんだり、チャレンジしたり、出会ったりと、思い思いの「活動」が日常的に繰り上げられるような「景色」が生まれていきます。

1パーク

中央にあるおにクル、市役所、中央公園、元茨木川緑地のエリア

中心市街地の真ん中に公共空間を集積した「パーク」では、2023年に開館したおにクルと広場の活用とともに、中央へと歩いて訪れる目的をつくることで、恒常的な賑わい創出を図っていきます。また、数々の社会実験を通じて培われてきた、多様な主体の活動やネットワークを推進力として、エリア全体の活性化につなげていきます。

南北軸

中心市街地を南北に横断する元茨木川緑地

豊かな緑やさくら並木があってゆったり散策できる元茨木川緑地は、市民に親しまれている空間です。老木の増加や施設の老朽化が進みつつあるため、この再生を目指して市民とともに「元茨木川緑地リ・デザイン」を推進しています。